

映画『プラスチックの海』プレス資料



海が、プラスチックで溢れている。

私たちには何ができるのだろうか。

世界 70 カ国以上、1200 回以上の上映。17 カ国語に翻訳され、

短縮版が国連本部でプレミア上映された話題作。

★11月13日（金）アップリンク渋谷・吉祥寺・京都ほか全国順次ロードショー

多くの科学者や識者が警鐘を鳴らす、海洋プラスチック問題。年間 800 万トンものプラスチックが海に捨てられているという。その大半は海底に沈み、海面や海中を漂うプラスチックも永久に分解されず、マイクロプラスチックとなって食物連鎖の一部になっていく。プラスチックゴミによる海洋汚染の実態とは？そしてプラスチックが海に、プランクトンに、クジラに、海鳥に、人体に及ぼす影響とは？デイビッド・アッテンボロー、シルビア・アール、タニヤ・ストリーター、バラク・オバマ他が出演。海と共に生きる全人類必見のドキュメンタリー。

監督：クレイグ・リーソン

配給：ユナイテッドピープル 宣伝：スリーピン

原題：A PLASTIC OCEAN

100 分／2016 年／イギリス・香港

<https://unitedpeople.jp/plasticocean/>

【取材・お問い合わせ】配給：ユナイテッドピープル pr@unitedpeople.jp 090-8833-6669

宣伝：スリーピン（原田）harada@gmail.com 090-7903-8534

映画概要

シロナガスクジラに魅せられ、幼い頃から追いつけていたクレイグ・リーソン。しかし、世界中の海を訪れる中、プランクトンよりも多く見つけたのはプラスチックゴミだった。美しい海に、毎年800万トンものプラスチックゴミが捨てられている事実を知り、海洋学者、環境活動家やジャーナリスト達と共に、自身が監督となり世界の海で何が起きているのかを調査し撮影することを決意する。21世紀に入り、生産量が激増しているプラスチック。便利さの一方で、大量のプラスチックが海に流出し続け、近年は5mm以下の「マイクロプラスチック」による海洋汚染にも大きな注目が集まっている。調査の中で明らかになるのは、ほんの少しのプラスチックしかリサイクルされていないこと。海鳥の体内から、234個のプラスチックの破片が発見されるなど、海に捨てられたプラスチックで海洋生物が犠牲になっていること。そして、プラスチックの毒素は人間にも害を及ぼすかもしれないこと。撮影クルーは世界中を訪れ、人類がこの数十年でプラスチック製品の使い捨てを続けてきた結果、危機的なレベルで海洋汚染が続いていることを明らかにしていく。



監督：クレイグ・リーソン

プロデューサー：ジョー・ラクストン、アダム・ライブジグ

製作総指揮：ソンジア・ノーマン、ダニエル・アウエルバッハ、クレイグ・リーソン

脚本：クレイグ・リーソン、ミンディー・エリオット

出演：クレイグ・リーソン、デイビッド・アッテンボロー、バラク・オバマ、シルビア・アール、タニヤ・ストリーター、リンジー・ポルター、ジョー・ラクストン、ダグ・アラン、ベン・フォークル、マイケル・ゴンジオール他

撮影：マイケル・ピッツ

編集：ミンディー・エリオット

音楽：ミリアム・カトラー、ローレンス・シュワルツ

配給：ユナイテッドピープル 宣伝：スリーピン

原題：A PLASTIC OCEAN

100分／2016年／イギリス・香港

【取材・お問い合わせ】 配給：ユナイテッドピープル pr@unitedpeople.jp 090-8833-6669

宣伝：スリーピン（原田） harada@gmail.com 090-7903-8534

クレイグ・リーソン監督 プロフィール

ジャーナリスト、映画監督、活動家。

BBC、CNN、アルジャジーラ、ナショナルジオグラフィック、ディスカバリーチャンネル、Australia's ABC 等に出演。司会者、ニュースレポーターとして活躍し、ジャーナリストとして 30 年の経験を持つ。起業家として Leeson Media International、Ocean Vista Films CEO を務める。I Shot Hong Kong Film Festival 創設。プラスチック・オーシャン財団エバンジェリスト。1999 年からドキュメンタリー作品を制作、2016 年公開の映画「プラスチックの海（原題：A PLASTIC OCEAN）」は国内外で 15 以上の賞を受賞。2017 年、国連本部で短縮版（22 分）が上映された。

監督 Q&A

Q. 海洋プラスチックゴミの問題に関心をもった理由を教えてください。

A. 海の生き物に興味を惹かれ、海が遊び場であり学び舎になっていたからです。幼い頃から、産業公害が地元の沿岸水域に与える影響を知っていたことが、私自身にも影響を与えました。



Q. 海洋プラスチックゴミ問題が地球規模の問題だと気付いたのはいつですか？

A. 2010 年、私はそれまで気付かずにいた海洋汚染の原因に気が付きました。それは、長年「使い捨て」だと教えられてきたプラスチックです。それから、私はプラスチックが人間と海洋生物に与える影響を徹底的に研究しました。

Q. 地球規模で対処すべき重要な課題だと思う理由は为什么呢？

A. プラスチックは人間が作り出したモノです。自然界にあるべきでない、またどう処理すべきかわからないものなので、堆積し、病のように地球を侵しているのです。地球の資源が持続的に存続するよう回復するよりも早く、私たちはその資源を使い切ってしまっています。海こそが私たちを生かしていると教わった人はごくわずかです。シルビア・アール博士の言うように、「綺麗な海がなければ、緑豊かな自然も存在しない。」天候、酸素、綺麗な水、食糧、医薬品となるものは海から、もしくは海の恩恵に支えられています。

Q. 『プラスチックの海』を通して成し遂げたいことは为什么呢？

A. 問題を知らなければ、何もしないですよ。知ることが、問題に関わることに繋がります。問題

【取材・お問い合わせ】 配給：ユナイテッドピープル pr@unitedpeople.jp 090-8833-6669

宣伝：スリーピン（原田）harada@gmail.com 090-7903-8534

を提起することによって、対話が始まり、変化が引き起こされることを望んでいます。協同し機能するような、海洋プラスチックゴミ問題の解決策はすでに私達の周り（身近）にあるのです。この問題の情報を共有することこそ、プラスチックの取り扱いに関する公共政策の転換につながります。

Q.映画制作は監督自身にどんな変化をもたらしましたか？

A.自分も世界の一部だという認識がより強くなりました。実際にプラスチック使い捨て反対のキャンペーンでは、大声を上げて活動しています。気がつくとは私はスーパーで精算中の人や、テイクアウト商品を手渡す店員、カフェのオーナーや銀行員、政治家など誰にでもプラスチック製品の使い捨ての悪影響について話しているんです。自然に優しくサステナブルな投資や、利益が持続可能性や環境への責任に基づいているビジネスに強い関心を抱くようになりました。

数字で見る『プラスチックの海』

世界中の人々が毎週クレジットカード1枚分に相当する5gのマイクロプラスチックを摂取している！？人間が1年間に体内に取り込むプラスチック量は、推定約250gに上ると言われています。また、このままプラスチック使用が増加し続けると、プラスチックごみの総量は2050年には海の魚の量を超えると予測されています。

- ・年間3億トン以上のプラスチックが生産されている。50年前の約5倍の量。
- ・250mlの油と3リットルの水を使い1リットル用のペットボトルを製造している。
- ・欧州では毎年1500万トンのプラスチックゴミが埋め立てられている。
- ・米国では毎年380億本のペットボトルが廃棄、200万トンのプラスチックゴミが埋め立てられている。
- ・1秒間に4,000個のペットボトルが使われている。
- ・年間800万トン以上のプラスチックゴミが海に捨てられている。そのうち大半は海に沈んでいる。
- ・プラスチック製品の半数は使い捨て。平均するとプラスチック製品の寿命はなんと12分。

出典：映画『プラスチックの海』本編

日本でも・・・

- ・日本周辺の海に漂う量は世界平均の約27倍と言われている。
- ・日本はプラスチックごみの総量は940万トンで世界第5位。
- ・日本人口1人当たりのプラスチック廃棄量は年32kg/で世界第2位。

出典：国連環境計画(UNEP)報告書「シングルユースプラスチック,2018」、
平成30年8月 環境省作成資料「プラスチックを取り巻く国内外の状況」

【取材・お問い合わせ】 配給：ユナイテッドピープル pr@unitedpeople.jp 090-8833-6669

宣伝：スリーピン（原田） harada@gmail.com 090-7903-8534

プラスチックの海

枝廣淳子（幸せ経済社会研究所所長）

タイトルに注意してほしい。「海のプラスチック」ではなく、「プラスチックの海」である。そう、クジラや魚や貝類やさまざまな水生生物にあふれていたはずの私たちの大事な海は、プラスチックの海になってしまったのだ。

映画「プラスチックの海」は、恐怖心をあおり立てることなく、丁寧に海の現状を伝えてくれる。見た目にはかつてと変わらない、青く澄んだ海が、実際にはその隅々までプラスチックが行き渡っているようすを。海に住む動物たちがこれまでどおり生きているだけ、その体内にプラスチックが入り込み、その命が奪われているようすを。

海洋プラスチック汚染の問題は、ふだんの生活ではその深刻さを見たり感じたりすることがない。海には国境がないので、自国の問題だという認識も持ちにくい。

海洋プラスチック汚染のようなグローバルで深刻かつ重要な問題に直面すると、私たちは「手のつけようがない」「自分ひとりやっても」「悪いのは私（たち）だけではない」と考え、問題を直視することを避けようとしがちだ。

しかし、この映画はそういった問題を「知ること」から始めよう、と呼びかける。知ることから、「気にする、何とかしようと思う」気持ちが生まれる。その気持ちなしには、変化のための行動は生まれないからだ。

「プラスチックの海」は、人間が自然界に、ひいては自分たちに起こしている惨状を伝えるだけの映画ではない。「では、どうしたらよいのか？」「どんな取り組みが進められているのか？」を伝えることで、未来への希望の光も示してくれる。

日本は未来への希望の光の 1 つになれるはずだ。使い捨てプラスチックの一人あたりの使用量が世界で 2 番目に大きい日本だからこそ、社会や経済の仕組みを変えていくことで、人々の認識や優先順位を変え、行動変容を促すことができる。高い技術力をもって、海洋プラ汚染の防止や、海に出てしまったプラの回収、回収したプラの安全で有用な処理を可能にするなど、世界に役立てるはずだ。

海の中に思いを馳せよう。自分たちの暮らしや行動がどうつながっているかを考えよう。どんなに小さな行動だったとしても、行動した分だけ状況は変わるのだ。

【取材・お問い合わせ】 配給：ユナイテッドピープル pr@unitedpeople.jp 090-8833-6669

宣伝：スリーピン（原田） harada@gmail.com 090-7903-8534

『プラスチックの海』 出演者の言葉

「米国での使い捨てのプラスチック消費量は1人につき年間約136キロ。プラスチックは丈夫であるが故に優れている反面最悪な素材でもあります。今までに作られたプラスチックのほぼ全量が地球上に残っています。今や世界での生産量は3億トンを超える状況です。プラスチック製品の半分は使い捨てです。2050年には世界人口が約100億人に達しプラスチックは3倍になるそうです。」

(クレイグ・リーソン監督)

「私たちはごみをごみ箱に捨てたり、海やビーチに投げ捨てたりします。それで無くなったと見なすのです。海のプラスチックごみは8割が陸からのものです。内陸で出たごみでも海に到達する可能性があります。」

地球全体が人類の住み家です。ごみを捨てていい所はなく、ごみからは逃げられません。海は自分1人の庭ではなく全ての生物の庭であり家と同じなんです。海洋は地球にとって支配的な影響力を持ちます。実際は地球の大半は海なんです。」

(海洋学者 シルビア・アール博士)

「地球環境の改善には海洋環境を改善すること。海洋が破壊され機能を果たさなくなれば全生物が危機に陥るだろう。」

(動物学者 デイビッド・アッテンボロー卿)

「私たち人間はここ10年で20世紀より多くのプラスチック製品を作ってる。そのうち半分の製品は使い捨てと言われているわ。分解できない素材なのに使い捨てたら、どうなるの？地球はごみであふれ返り捨て場がありません。できる限りプラスチックで包装してない食品を買うわ。まずは一般消費者が行動することです。」

(フリーダイバー タニヤ・ストリーター)

『プラスチックの海』 著名人コメント

地球に心から謝りたくなりました。そして同時に、地球と一心同体の僕ら自身も蝕まれ始めていることも、あらためて実感しました。誰もがすぐできること、それは「プラスチックの海」でまず現状を知ることです。(自然写真家 高砂淳二)

私は海が大好きです。そして今はフリーダイビングをはじめもっともっと海を大切にしていきたいと思っています。でもそんな海が私達人間のせいで悲鳴をあげています！全人類に見てもらいたい映画です。現実から目を逸らさないで。私達は大自然によって生かされている事を知って今すぐに行動しよう！私はやります！地球は人間だけのものではない！(モデル、女優、歌手 土屋アンナ)

コメント一覧 <https://unitedpeople.jp/plasticocean/rv>

【取材・お問い合わせ】 配給：ユナイテッドピープル pr@unitedpeople.jp 090-8833-6669

宣伝：スリーピン (原田) harada@gmail.com 090-7903-8534